

こんにちは！！

# 岩手県社会福祉事業団支援検討会です。



今号では、発達障がい支援検討部会について報告させていただきます！

発達障がい支援検討部会  
マスコットキャラクター  
Cえんくん

今年度の発達障がい支援検討部会のテーマは『つながり』です。

- ☆ 一人の人の過去・現在・未来という時間軸でのつながり
  - ☆ わたし・相手・第三者という多角的視点
  - ☆ 双方向のコミュニケーション
  - ☆ 一次機関・二次機関・三次機関の連携
  - ☆ 発達障がい支援検討部会・所属事業所・法人全体への活動の波及
- 様々な『つながり』を意識しながら検討を進めています。

## 外部講師のお話

岩手大学早坂浩志先生から大学生の、しごとネットさくら菅野史恵支援ワーカーから就労と青年期以降の発達障がい者への支援について、ご講義をいただきました。

どのライフステージの支援においても、重要なことは利用者支援の目的に応じたアセスメントを行っていくこと、関係機関の連携を図ることであるといえます。先生方のご講義の中で特に印象的だったのは青年期以降の発達障がい支援は本人の自覚（自己理解）があるかどうかでその後の対応や選択肢が大きく変わるということでした。障がいや困り感の自覚なく青年期までを過ごす方も多くいる中で、私たちにはどのような支援ができるのか、検討していくことが求められていると思いました。

## 事例検討

昨年度から引き続き、たばしね学園 S さんのケースの事例を検討しています。昨年度は粗暴行為や感覚過敏が課題として挙げられ、再アセスメントを進めていく中で「言葉を理解することの難しさ」に気づきました。最近は、物への執着が見られるようになった S さん。毎月の部会で S さんの情報を共有し、どのような支援が効果的か、どのような背景が考えられるかを検討しています。

たばしね学園所属  
部会メンバーからの声

様々な職種が集まる部会での検討だからこそ、各々の視点からの意見をもらうことができ、これまで自分が気づけなかったような特性を知ることが出来ました。これからも様々な人々とのつながりを大切にし、より良い支援に繋げていきたいと思っています。

## 視覚支援

S さんの事例を検討する中で出てきた課題として、昨年度は“感覚の過敏性”について、ミニ研修を行いました。今年度は、言葉だけの指示のわかりにくさがあるという見立てから、“視覚支援”について研鑽を積んでいます。

部会メンバーが所属する施設の視覚支援についての取り組みを報告しあうとともに、部会での検討内容の伝達、新たな視覚支援の導入に取り組んでいます。また、一度きりで終わらないよう、継続して、視覚支援の状況報告や新たな取組みについて確認しています。

一事例として、みたけ学園では、過去に行われていた支援を見直しました。以前は、職員勤務表を提示していましたが、その支援に対する職員の意識の低下や、効果の感じにくさから支援が途切れてしまっていました。しかし、発達障がいを持つ利用者が増え、勤務職員が分からないことで不安が大きくなっていったことから、職員皆で検討し、再度職員勤務表を掲示することとし、現在も継続しています。変化に合わせて支援をもう一度振り返ること（実施の経緯、実施しなくなった経緯、工夫の仕方等）の重要性を実感しています。

### 編集後記

支援検討部会が何をしているのかと聞かれることがあります。このおたよりも、支援検討部会の活動も、日々の支援、日々の困り感に寄り添いたいという思いから成り立っています。

発達障がいは身近な支援テーマです。今後も法人内で共有してまいります。

みたけ学園  
職員勤務表  
です



時間	職員
7:00 ~	あまごぼん
8:00 ~	やうじ
8:30 ~	しんけん
9:30 ~ 10:00	しんけん
10:00 ~	よか
11:30 ~	おんやのじけん
12:00 ~	あまごぼん
~ 13:00	おんやのじけん
13:00 ~ 15:00	よか
15:00	しんけん
~ 16:30	よか
16:30 ~	おんやのじけん
17:40	あまごぼん
~ 19:00	よか